



「サーキュラーエコノミー」で都市をどうデザインするか？ ～グローバルの潮流とローカルの実践に学ぶ～

- 第1回 12/ 1(水) オランダの最先端サーキュラーシティと日本における食の循環プロジェクト
 第2回 12/22(水) リサイクル率日本一の町の新たな挑戦「サーキュラーヴィレッジ・大崎町」
 第3回 1/12(水) 都市における循環の未来を描く「水辺のまちサーキュラー-LAB」
 第4回 1/26(水) 循環する日常をえらび実践するラボ「élab(えらぼ)」

各回 19:30～21:00(オンライン、任意参加のアフタートークあり)
 全4回 一般8,000円/会員6,000円/学生4,000円

2050年までに、世界人口の約7割が都市に暮らすと推測されており、都市は世界の自然資源の75%を消費し、廃棄物の50%以上、温室効果ガスの60～80%を排出している。気候危機や資源の枯渇など様々な社会課題に直面している現在、持続可能な経済・社会を実現するうえで都市というシステムのリ・デザインは欠かせないテーマとなっている。

世界では、アムステルダム、ロンドン、パリ、ニューヨークなど、あらゆる都市が創造性と多様性を包含しながら「サーキュラーエコノミー(循環経済)」の概念を自らのシステムに採り入れ、環境・社会・経済のバランスをとりながら持続可能なまちづくりへの移行を進めている。

一方日本では、20世紀の創造性を引っ張っていた分野の一つは、間違いなく建築・都市だった。しかし21世紀の現在、成熟した日本の都市のエコシステムは「画一的」「効率的」となっており、創造性や生産性が世界と比較して緩やかに下降している。コロナ禍の現在、一度立ち止まり、これからの都市の風景を想像するために、大量生産・大量消費・大量廃棄を伴う現在の都市ではなく、循環経済の視点から都市を見直してみたい。

今回のまちづくりカレッジ、「『サーキュラーエコノミー』で都市をどうデザインするか？」では、建築・都市の分野において、循環の視点から資源やモノをできるかぎり長く使い続け、廃棄や汚染を削減し、自然システムを再生させるデザインやアイデア、技術を持ち、循環型のまちづくりを実践しているゲストを招き、毎回対話形式で建築・都市の新しい風景をデザインしていきます。

プロデュース



西田 司
 建築家・オンデザイン
 /東京理科大学准教授



加藤 佑
 ハーチ株式会社代表取締役
 /IDEA FOR GOOD 創刊者

講師

第1回:12/1



オランダの最先端サーキュラーシティと日本における食の循環プロジェクト
安居昭博 / Circular Initiatives & Partners

1988年生まれ。Circular Initiatives & Partners代表。世界経済フォーラムGlobal Future Council日本代表。ドイツ・キール大学“Sustainability, Society and the Environment”修士課程卒業。サーキュラーエコノミー研究者 / サステナブル・ビジネスコンサルタント / 映像クリエイター。アムステルダムと東京の2拠点で視察イベントやオンライン講習会の開催、各種プロジェクトヘッドバイザーとして参画し、サーキュラーエコノミーを国内外へ広める活動に従事している。

第2回:12/22



リサイクル率日本一の町の新たな挑戦「サーキュラーヴィレッジ・大崎町」
斎藤智彦 / 鹿児島県大崎町

1984年東京都生まれ。国内外でアートに関する活動に従事した後、都市や地域をテーマにした活動に興味を持つようになる。慶應義塾大学SFC研究所にて地域政策についての研究・実践や、まちづくり会社の立ち上げ・運営、民間企業の経営などを経て、2019年1月、鹿児島県大崎町の政策補佐監に就任。各種計画策定や、地域内外の官民連携によるSDGs等の政策推進を担当。2020年7月大崎町に合作株式会社を設立。2021年4月からは大崎町での官民連携によるSDGs推進機関である(一社)大崎町SDGs推進協議会の事務局を合作で受託し、同団体の専務理事(業務執行責任者)を務める。

第3回:1/12



都市における循環の未来を描く「水辺のまちサーキュラー-LAB」
伊東勝 / SHIBAURA HOSUE

1974年、千葉県生まれ。京都造形芸術大学大学院修了。現在、東京・港区にあるSHIBAURA HOUSEの代表取締役を務める。1952年に創業した製版会社を社屋ごとリノベーションし、文化事業を拡充。建築家の妹島和世さんによってデザインされた社屋の一部を開放し、地域に暮らす人達のコミュニティスペースとして運営している。同時に海外の文化機関やクリエイティブな組織と協働。近年は共生社会や環境問題とクリエイティブを結びつけたプロジェクトに取り組んでいる。

第4回:1/26



循環する日常をえらび実践するラボ「élab(えらぼ)」
大山貴子 / 株式会社fog 代表

1987年仙台生まれ。米ボストンサフォーク大にてエルサルバドルでのゲリラ農村留学やウガンダの人道支援&平和構築に従事、卒業。ニューヨークにて新聞社、EdTechでの海外戦略、編集&ライティング業を経て、2015年に帰国。日本における食の安全や環境面での取り組みの必要性を感じ、100BANCH入居プロジェクトとしてフードロスを考える各種企画やワークショップ開発を実施後、株式会社fogを創設。人間中心ではなく、人間が自然の一部として暮らす循環型社会の実現を、プロセス設計、持続可能な食、行動分析、コレクティブインパクトを起こすコミュニティ開発などから行う。

詳細・申込

「Peatix」で「まちづくりカレッジ」と検索下さい！
 申込締切：2021年11月29日23:55、定員50名程度

